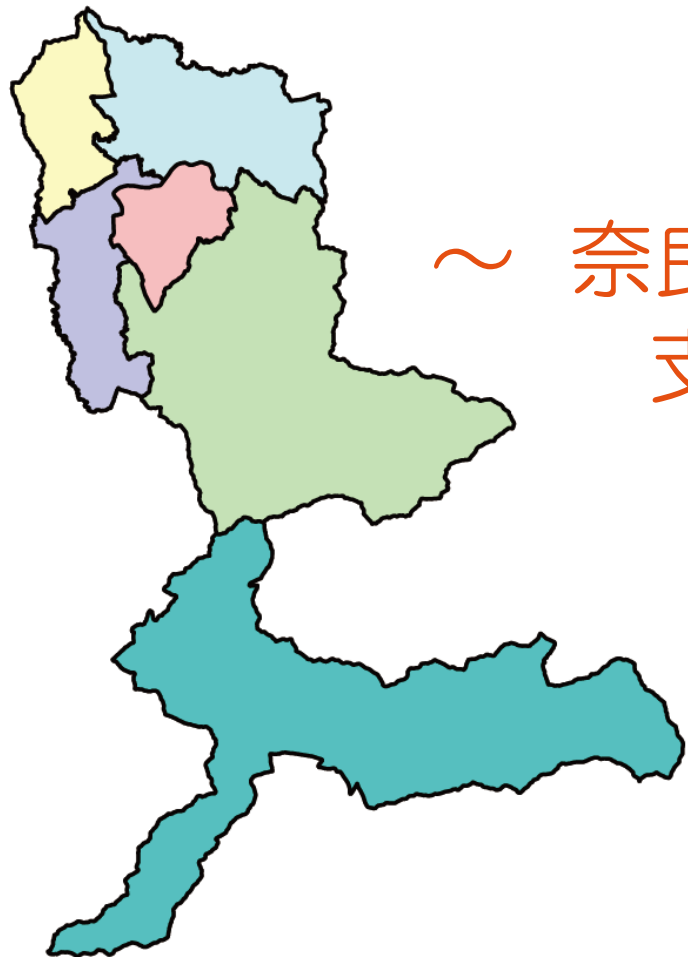


五條市における地域包括ケアシステム 全体構想の策定状況報告

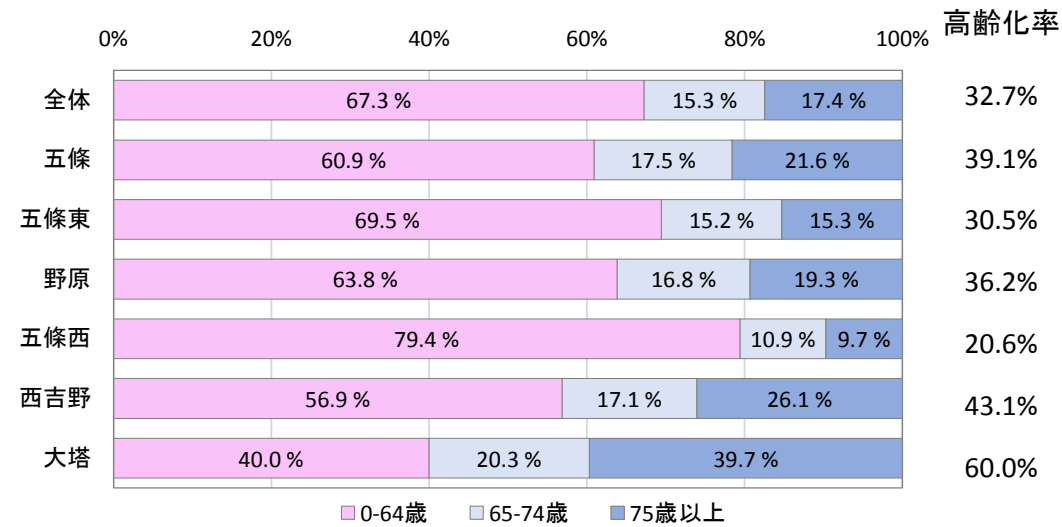


～ 奈良県地域包括ケアシステム構築
支援補助金事業実施状況報告 ～

1. 五條市の高齢化の現状

- 人口は32,703人、高齢化率は32.7%（平成37年の推計→人口は約26,500人、高齢化率は39.5%）
- 旧西吉野村・旧大塔村の高齢化率は非常に高く、旧五條市内でも高齢化に差があるほか、資源も偏在
- 各地域の実情に応じた、地域包括ケアシステムの構築は本市にとって喫緊の課題

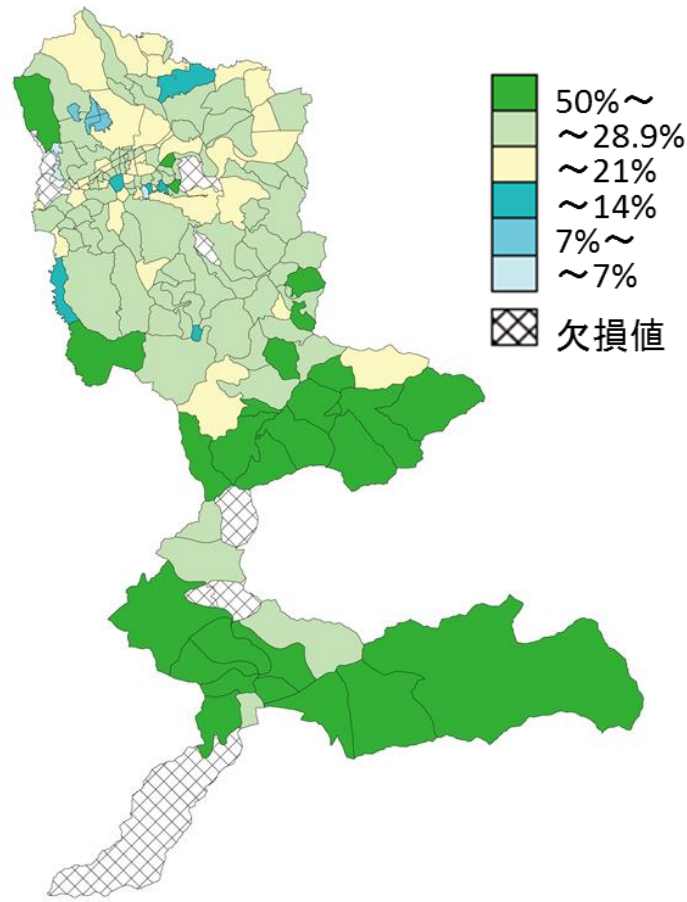
五條市の圏域別の総人口と高齢者人口(平成27年10月1日)



	総人口	65歳以上人口(高齢化率:%)	65-74歳(高齢者に占める割合:%)	75歳以上(高齢者に占める割合:%)
全体	32,703	10,700 (32.7)	4,999 (46.7)	5,701 (53.3)
五條	8,854	3,460 (39.1)	1,551 (44.8)	1,909 (55.2)
五條東	8,610	2,630 (30.5)	1,313 (49.9)	1,317 (50.1)
野原	4,528	1,637 (36.2)	762 (46.5)	875 (53.5)
五條西	7,537	1,551 (20.6)	821 (52.9)	730 (47.1)
西吉野	2,859	1,233 (43.1)	488 (39.6)	745 (60.4)
大塔	315	189 (60.0)	64 (33.9)	125 (66.1)

平成27年10月1日現在、出典：五條市

五條市の高齢化率(平成22年、小地域別)

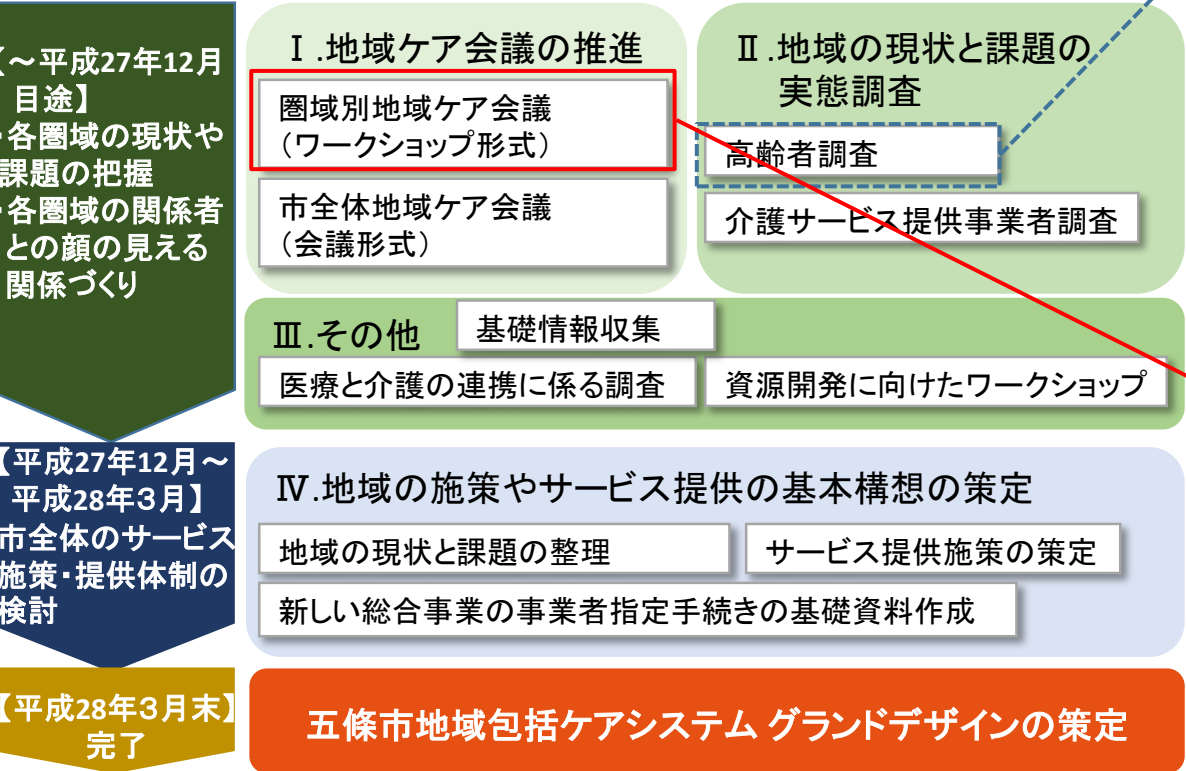


出典：平成22年度国勢調査(小地域)

2. 地域包括ケアシステム全体構想策定業務の概要

- 目的：地域ケア会議の開催、高齢者やサービス事業者等の実態調査などを行い、現状分析と課題把握を行うことで、多様な主体による高齢者支援サービス提供に向けた施策を構築し、また、「五條病院周辺」の「まちづくり」を医療と介護の連携の拠点として、地域包括ケアシステムのグランドデザインを構築する
- 期間：平成27年8月～平成28年3月

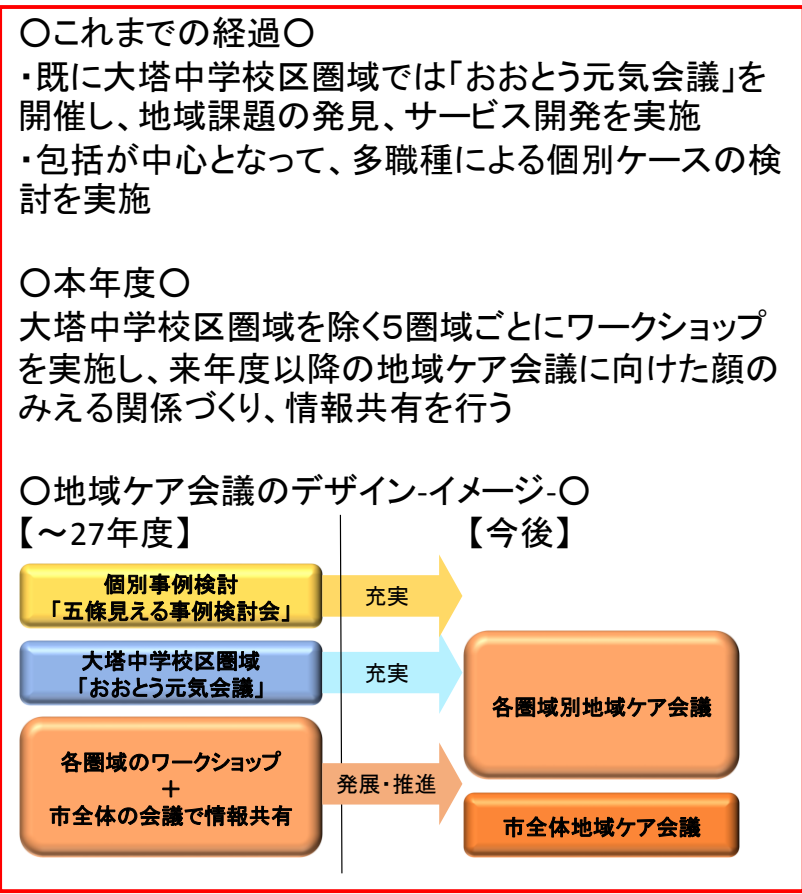
総合事業(主に生活支援)のニーズ及び地域課題等を把握するためのアンケート調査



【～平成27年12月 目途】
各圏域の現状や課題の把握
各圏域の関係者との顔の見える関係づくり

【平成27年12月～平成28年3月】
市全体のサービス施策・提供体制の検討

【平成28年3月末】完了



※五條病院周辺のまちづくり・医療と介護の連携拠点：奈良県と本市とで包括協定を結んで進めている事業

3-1. 高齢者調査：概要

○ 目的：総合事業に係るニーズ及び地域における課題や強みを把握し、地域包括ケアシステムの実現に向けた仕組みづくりの基礎資料とする

○ 調査対象：下記①～③の合計4,000人

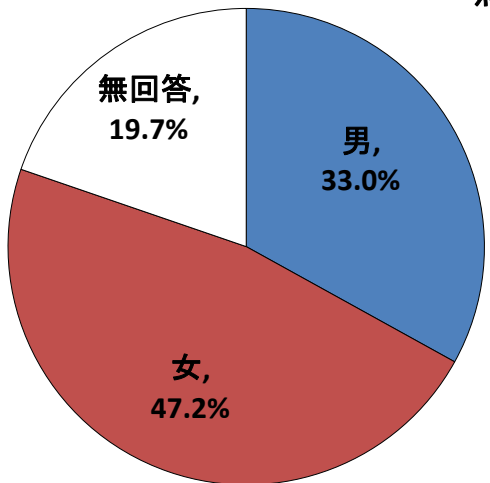
- ①65歳以上の市内在住の要支援1・2の認定者633人
- ②市内在住の二次予防事業対象者1,326人（26年度に実施したニーズ調査結果）
- ③75歳以上の市内在住の要介護認定を受けていない2,041人（2,783人から無作為抽出）

○ 調査方法：郵送配布・郵送回収

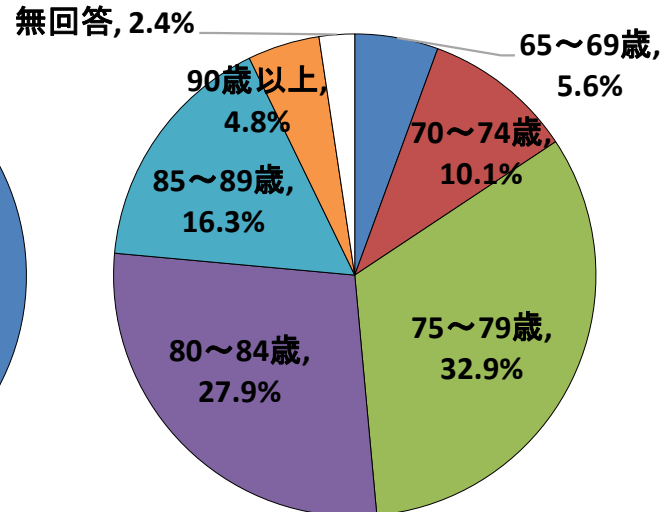
○ 回答者数（率）：2,361人（59.0%）

○ 主な回答者属性（単数回答）：

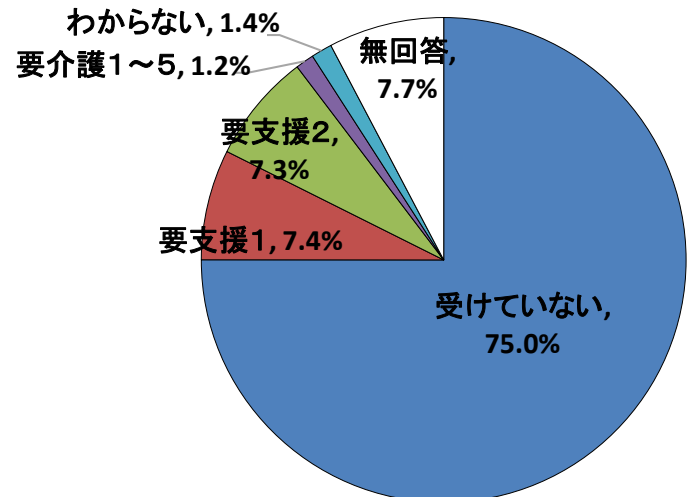
◎性別(N=2,361)



◎年齢(N=2,361)



◎認定状況(N=2,361)

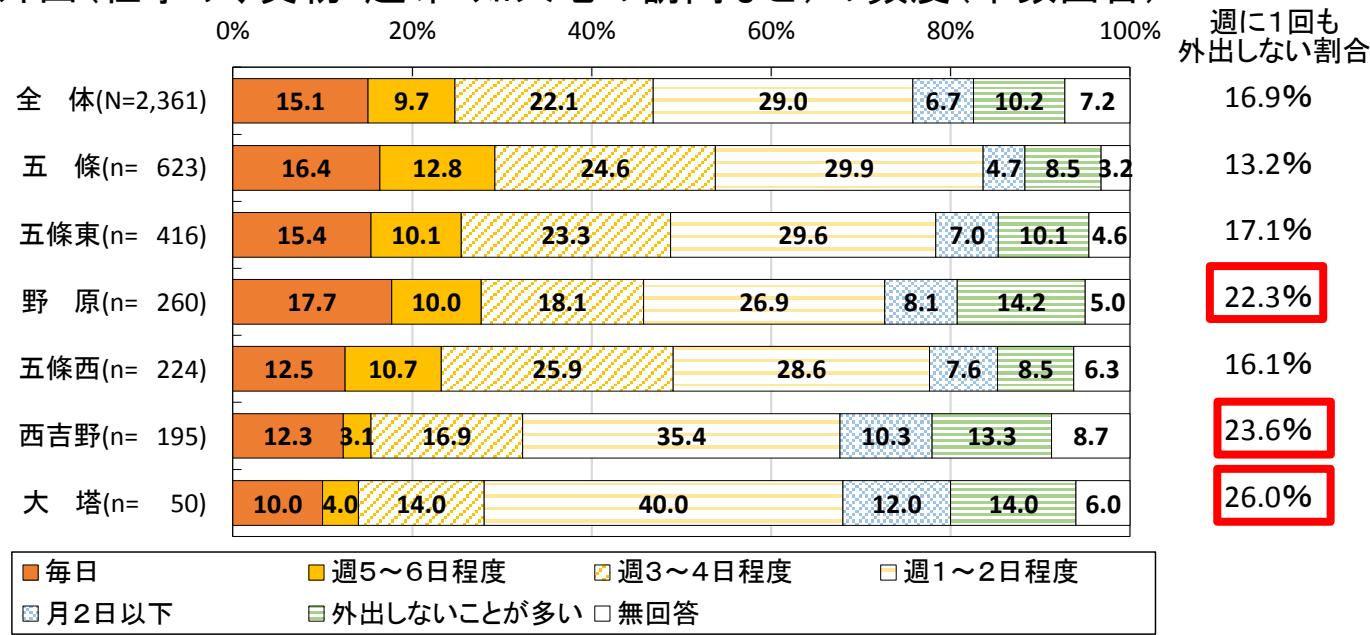


3-2. 高齢者調査：結果の抜粋<住まいや住環境の困りごと><外出頻度>

◎現在の住まいや住環境などで、困っていること(複数回答)

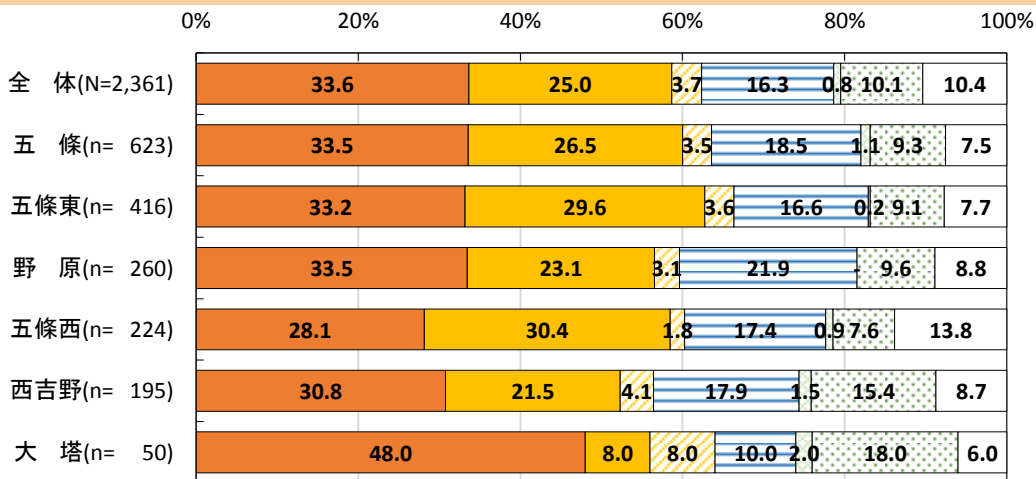
	鉄道やバスの利用が不便	買物をする場所が近くにない	玄関周りの段差	家族が近くにいない	屋内の階段	家の周りに階段や坂が多い	廊下や居室などの段差	浴室や浴槽	家の周りの道に歩道がない、狭い	和式トイレ	エレベーターがない	その他	特になし	無回答
全体(N=2,361)	27.5	25.9	10.1	9.6	9.5	8.5	7.6	6.7	5.0	3.9	2.5	3.4	31.5	16.6
五條(n= 623)	24.9	23.6	11.2	10.0	12.5	6.6	9.3	8.3	4.8	4.2	3.5	3.4	36.6	12.8
五條東(n= 416)	26.4	29.1	9.9	7.9	8.2	8.4	6.7	8.9	4.6	4.1	2.9	3.8	32.2	14.9
野原(n= 260)	29.2	22.7	11.9	5.4	9.2	8.1	8.8	5.8	6.2	7.7	0.8	5.0	32.7	15.0
五條西(n= 224)	39.3	16.1	13.8	8.0	10.7	8.5	8.0	5.4	4.9	1.8	1.8	3.6	34.4	11.2
西吉野(n= 195)	35.9	40.0	8.2	11.3	7.7	18.5	9.2	5.6	5.6	3.1	2.1	3.1	29.7	13.3
大塔(n= 50)	30.0	66.0	10.0	18.0	10.0	22.0	10.0	6.0	8.0	2.0	2.0	6.0	14.0	10.0

◎外出(仕事や、買物・趣味・知人宅の訪問など)の頻度(単数回答)



※グラフ作成上、選択肢の文言は簡略化している

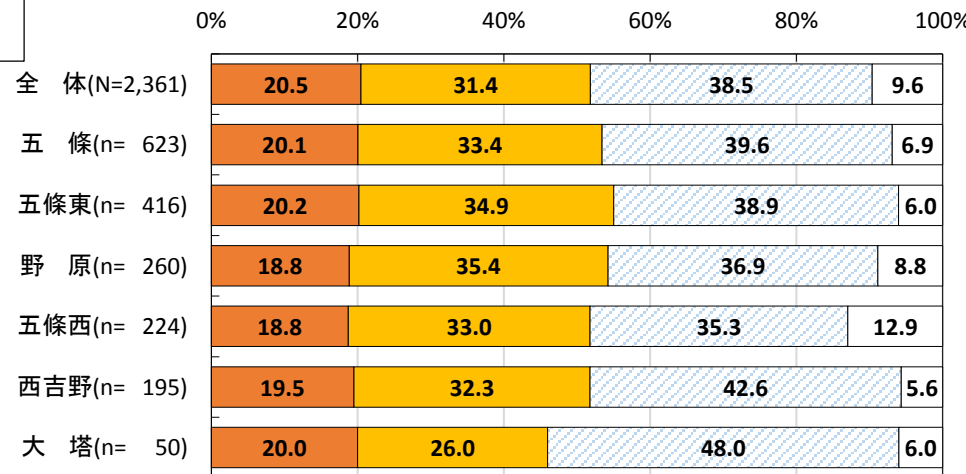
3-3. 高齢者調査：結果の抜粋＜介護・長期療養が必要になった場合の生活場所の希望＞



◎介護が必要になった場合に希望する生活場所(単数回答)

- 家族などの介護を受けながら自宅で生活したい
- 介護保険等の公的サービスを利用しながら自宅で生活したい
- 公的サービスのほか、近所の人やボランティアグループ、民間サービスを利用しながら、自宅で生活したい
- 特別養護老人ホーム等の施設やケアハウス等の高齢者向け住宅に入所・入居したい
- その他
- わからない
- 無回答

◎長期療養が必要になった場合の自宅療養の継続希望(単数回答)



- 続けたい
- 続けたくない
- わからない
- 無回答

※グラフ作成上、選択肢の文言は簡略化している

3-4. 調査：結果の抜粋＜地域で安心してすみ続けるための問題：上位5項目＞

◎地域で安心して住み続けるために感じている問題(複数回答)

	全体(N=2,361)	五 條(n= 623)	五條東(n= 416)	野 原(n= 260)	五條西(n= 224)	西吉野(n= 195)	大 塔(n= 50)
1位	13.交通が不便なこと、 移動手段が不足していること 31.2%	13.交通が不便なこと、 移動手段が不足していること 28.4%	13.交通が不便なこと、 移動手段が不足していること 28.8%	13.交通が不便なこと、 移動手段が不足していること 31.5%	13.交通が不便なこと、 移動手段が不足していること 37.9%	13.交通が不便なこと、 移動手段が不足していること 45.6%	13.交通が不便なこと、 移動手段が不足していること 46.0%
2位	5.特別養護老人ホームなど入所施設が不足していること 23.5%	5.特別養護老人ホームなど入所施設が不足していること 26.6%	5.特別養護老人ホームなど入所施設が不足していること 24.8%	5.特別養護老人ホームなど入所施設が不足していること 25.0%	5.特別養護老人ホームなど入所施設が不足していること 24.1%	5.特別養護老人ホームなど入所施設が不足していること 26.7%	4.在宅で暮らし続けるための訪問サービスや訪問看護等の介護サービスが不足していること 28.0%
3位	3.適切な情報が得られない、又は、そのような情報があることを知らない人がいること 18.6%	3.適切な情報が得られない、又は、そのような情報があることを知らない人がいること 20.5%	4.在宅で暮らし続けるための訪問サービスや訪問看護等の介護サービスが不足していること 20.9%	3.適切な情報が得られない、又は、そのような情報があることを知らない人がいること 21.9%	3.適切な情報が得られない、又は、そのような情報があることを知らない人がいること 17.0%	3.適切な情報が得られない、又は、そのような情報があることを知らない人がいること 20.5%	5.特別養護老人ホームなど入所施設が不足していること 24.0%
4位	4.在宅で暮らし続けるための訪問サービスや訪問看護等の介護サービスが不足していること 16.9%	4.在宅で暮らし続けるための訪問サービスや訪問看護等の介護サービスが不足していること 16.4%	3.適切な情報が得られない、又は、そのような情報があることを知らない人がいること 18.8%	4.在宅で暮らし続けるための訪問サービスや訪問看護等の介護サービスが不足していること 18.5%	10.近所づきあいなど地域のつながりが希薄なこと 16.5%	4.在宅で暮らし続けるための訪問サービスや訪問看護等の介護サービスが不足していること 14.9%	8.認知症予防や認知症の早期発見の仕組みづくり等の認知症対策が不足していること 16.0%
5位	9.ひとり暮らし高齢者の見守りや支え合い活動が不十分なこと 13.9%	9.ひとり暮らし高齢者の見守りや支え合い活動が不十分なこと 16.2%	1.健康づくりや介護予防の取り組みが不十分なこと 17.8%	1.健康づくりや介護予防の取り組みが不十分なこと 12.7%	9.ひとり暮らし高齢者の見守りや支え合い活動が不十分なこと 16.1%	8.認知症予防や認知症の早期発見の仕組みづくり等の認知症対策が不足していること 11.8%	1.健康づくりや介護予防の取り組みが不十分なこと 16.0%

※無回答は、全体が18.9%、五條が14.3%、五條東が14.2%、野原が16.2%、五條西が18.8%、西吉野が16.4%、大塔が14.0%。

※グラフ作成上、選択肢の文言は簡略化している

4-1. 圏域別地域ケア会議〈ワークショップ形式〉の概要

○目的

- ・ 来年度以降、開催する地域ケア会議を充実させるため
- ・ お互いの立場や多様な意見を尊重・理解し合いながら、課題や取り組むべき方策などについて話し合い、顔の見える関係をつくる

○メンバー

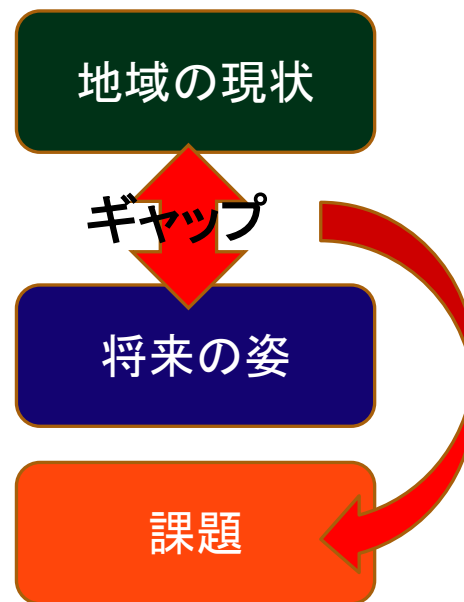
- ・ 自治連合会、民生委員、赤十字奉仕団、老人クラブ、シルバー人材センター、社協、事業所、保健所、警察、郵便局、森林組合 等を対象に、1グループ8～10人程度で議論

☆視点☆

高齢者が住み慣れたこの地域で、自分らしく暮らし続けるためには
どうすればいいのか？

☆話し合いのテーマ☆

- ① 各中学校区圏域の
「良いところ」「困っているところ」
- ② 各中学校区圏域の
「目指すべき地域の将来の姿」
- ③ 目指すべき将来に向けた取組



4-1-1. 圏域別地域ケア会議<ワークショップ形式>で使用した模造紙

地域の良いところと困っているところ

～考える際の視点～

- 生活支援：見守りや配食、外出支援、家事援助等の自立した生活を支えるサービス
- 介護予防：要介護状態の発生・悪化を防ぐための体操やサロン活動等
- 介護：介護保険制度で提供されるサービス（在宅、施設サービス等）
- 医療：病院や診療所での医療、在宅医療等

近所づきあい：住みやすさ、高齢性、地域資源、高齢者

生活の利便性：生活習慣・生きがい、認知症等

健康：満近所の名刺感ある、健康作り体操等、近所の人と顔見知りでおついでができてい、声かけ運動の少い中心、近所づきあいは体力の稼働が多、近所づきあいは体力の稼働が多、近所づきあいは体力の稼働が多

情報共有：利用できず、行政の状況、行政の状況、行政の状況

活動：夜間活動の確保、夜間活動の確保、夜間活動の確保

交通の不便さ：交通の不便さ、交通の不便さ、交通の不便さ

24時間営業：役所の24時間営業、役所の24時間営業、役所の24時間営業

防犯：防犯の確保、防犯の確保、防犯の確保

医療：医療の確保、医療の確保、医療の確保

目指すべき地域の将来の姿（地区のあるべき姿）

【キャッチフレーズ】

みんなであい、助けあい、安全・安心で、生きがいと活力のあるまち

目指すべき将来に向けた取組（やるべきこと）

安全・安心

- 地域の見守り活動
- 声かけ運動も広げて行く
- 見守り活動や声かけ運動も広げて行く
- 見守り活動や声かけ運動も広げて行く

見守り

- 見守り活動や声かけ運動も広げて行く
- 見守り活動や声かけ運動も広げて行く
- 見守り活動や声かけ運動も広げて行く

たすけあい

- 見守り活動や声かけ運動も広げて行く
- 見守り活動や声かけ運動も広げて行く
- 見守り活動や声かけ運動も広げて行く

防犯

- 防犯の確保
- 防犯の確保
- 防犯の確保

医療

- 医療の確保
- 医療の確保
- 医療の確保

生きがい

- 生きがいの確保
- 生きがいの確保
- 生きがいの確保

活力

- 活力の確保
- 活力の確保
- 活力の確保

情報共有

- 情報共有の確保
- 情報共有の確保
- 情報共有の確保

活動

- 活動の確保
- 活動の確保
- 活動の確保

交通の不便さ

- 交通の不便さの確保
- 交通の不便さの確保
- 交通の不便さの確保

24時間営業

- 24時間営業の確保
- 24時間営業の確保
- 24時間営業の確保

4-2. 圏域別地域ケア会議<ワークショップ形式>の結果概要<強み・弱み>

- 全体として、地域のつながりが強みである反面、そのつながりが希薄化している点が弱みとして挙げられた
- 全ての圏域で、弱みとして、交通の便が悪い点が挙げられたほか、買物が不便とする圏域も多い

五條西

- 【強み】**
- ・社会資源(買い物・診療所・福祉施設)が充実
 - ・活気がある
 - ・安心・気軽に参加できるイベントがある
 - ・人材がいる
 - ・生きがいがある
 - ・地域のつながり

- 【弱み】**
- ・交通が不便
 - ・町内会・自治会の加入率がよくない
 - ・地域のつながりがなくなりつつある
 - ・病院・商店が遠い
 - ・高齢者の車の事故が多い
 - ・相談相手がいない
 - ・把握困難
 - ・高齢者が無関心

五條東

- 【強み】**
- ・買物が便利
 - ・元気な人が多い(畑等)
 - ・施設(医療機関)が充実
 - ・生活圏が広い(他市町へのアクセス良)
 - ・自然が多い
 - ・つながりが充実
 - ・同居が多い

- 【弱み】**
- ・交通が不便、道路が狭い
 - ・交流の場の不足
 - ・家(日本家屋)が介護に不適
 - ・地域資源(医療機関、買物場所)に地域格差がある
 - ・隣家が離れている
 - ・空家の増加
 - ・ボランティアのなり手が少ない

五條

- 【強み】**
- ・生活の利便性が良い
 - ・自然豊かで住みやすい
 - ・観光・特産品がある
 - ・近所付き合いが充実
 - ・コミュニティがしっかりしている
 - ・地域活動が活発、元気な人が多い

- 【弱み】**
- ・孤立孤独
 - ・交通が不便
 - ・地域資源の偏在
 - ・地域の活力
 - ・独居高齢者が多い、支援不足
 - ・買物が不便な地域がある
 - ・中高年齢の働く場がない
 - ・コミュニティがしっかりしているからこそ迷惑をかけられない
 - ・後継者不足
 - ・情報の共有

野原

- 【強み】**
- ・病院がある
 - ・活気がある(高校など)
 - ・困りごとを相談できる(介護の充実、包括等)
 - ・街並み
 - ・近所付き合いが充実
 - ・生きがいのある人が多い
 - ・施設が(そこそこ)充実

- 【弱み】**
- ・安全安心(交通不便、狭い道路)
 - ・医療不安(病院が遠くなる)
 - ・若者が少ない
 - ・近所とのつながり
 - ・活気がない(働く場がない)
 - ・高齢化(空家・隣家が遠い等)
 - ・定住しない
 - ・住宅の老朽化



※強みと弱みに重複した項目が挙げられているのは、中学校区圏域内にも地域差があるほか、「地域のつながりは強いが、希薄になりつつある」といった強み・弱みの二面性があるためである

4-2. 圏域別地域ケア会議<ワークショップ形式>の結果概要<目指すべき将来の姿・課題>

- 将来の姿を示すキーワードとして、「安心・安全」「つながり」「支え合い」「役割」「生きがい」が多く挙げられている
- 課題として、全ての圏域で「交通網・道路の整備、交通弱者対策」が挙げられたほか、地域のなかでつながりを維持・向上させていくための様々な施策が挙げられた

凡例

目指すべき将来の姿のキーワード

○目指すべき将来の姿を実現するための課題

五條西

社会貢献、助け合い、顔の見える関係、つながり、一歩一声

○つながり

- ・地域における安否確認の仕組みづくり
- ・地域のことを話し合う場作り
- ・地域人材の掘り起こし、リーダー育成

○個人の意識改革

- ・参加や情報入手への意欲

五條東

安心・安全、すべての世代にとって住みやすい地域

○交流

- ・身近な場所を活用し、集いの場(住民発案)を確保
- ・多世代交流の行事を増やす

○元気

- ・無料健診を増やす
- ・高齢者でもできる仕事・役割づくり

○つながり

- ・見守り、声かけ運動

五條

助け合い、支え合い、役割・生きがい、安全安心

○安全・安心

- ・地域団体による声かけ運動等の見守り
- ・各団体役員による定期的な話し合いの場づくり
- ・「地域の気になる人」の情報の共有化

○セルフメディケーション・生きがいづくり

- ・役割や役立つ場・働く場づくり
- ・90歳まで畑仕事のできる体づくり
- ・空家を活用したサロン活動等

野原

夢・未来あふれる、人・つながり、安心

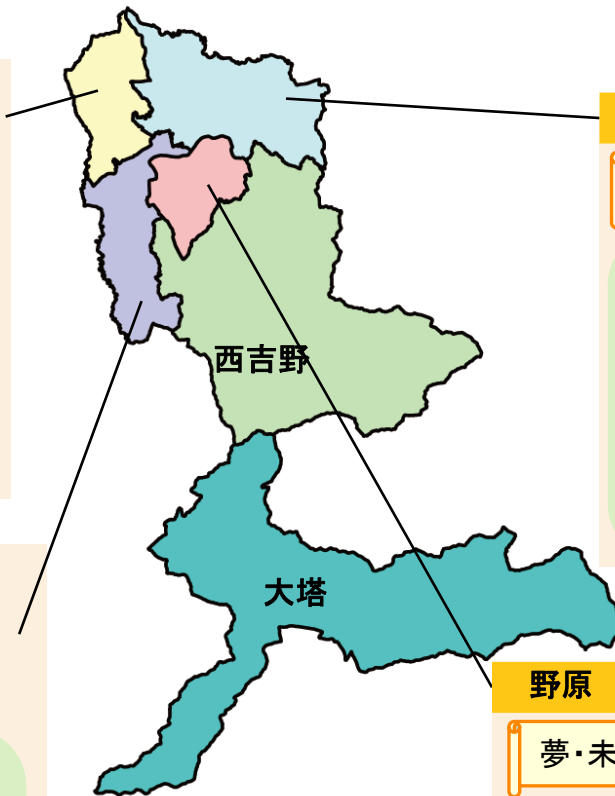
○地域のネットワークづくり

- ・地域団体の横のつながりづくり
- ・ボランティアによる見守り体制整備、要支援者マップ・リスト
- ・いつでも気楽に集える場所づくり

○自己意識の向上

- ・健康づくり、生きがいづくり

○地域活性化



5. 今後の展開

- アンケート調査や地域ケア会議の結果から、地域の現状と課題を整理
- 庁内にワーキンググループを設置し、サービス提供の施策を検討・作成
- 地域包括ケアシステムのグランドデザインを策定
- 来年度以降、地域包括支援センター等に寄せられた個別ケース（困難事例）を、各圏域での課題とし、情報を共有し、解決策を探っていききたい。

